

令和5年度 具体的な学校経営計画

1 学校の情報発信

岡山県立高梁高等学校 No.1

本年度の 重点目標		担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
					達成状況		評価	達成状況		評価
①	戦略的かつ効果的な広報活動による生徒募集	総務 企画課	HP・SNSによる情報発信を一元化・効率化し、更新回数及びHP閲覧数の加増を実現する。	HPブログ更新回数が、 A：年間200回（月平均16.7回） B：年間160回（月平均13.3回） ※昨年度更新回数 SNS160回 HPブログ72回						
②	保護者の学校理解の促進	総務 企画課	保護者に本校HP・SNSによる情報発信が周知されるよう働きかけると同時に、本校の教育活動に対する保護者の理解度を深めるための情報提供の質・量の向上を図る。	保護者の学校自己評価アンケートに、本校の情報提供の取り組みに関する質問項目「本校HP・SNSを通して本校の教育活動に対する理解が深まった」を追加し、その肯定群の割合が、 A：80％ B：65％ ※新規						

2 方谷学の深化

本年度の 重点目標		担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
					達成状況		評価	達成状況		評価
③	地域と連携した課題解決型学習（PBL）の充実	総務 企画課	探究活動の深化につながるような、地域・外部との具体的な連携を、生徒の探究活動の道程（ロードマップ）に組み込むよう指導を行う。 探究外部人材の協力を得て、地域・外部との連携を深め、獲得した知見を地域・社会へと還元させる学びを実現し、探究成果の外部発信を促進する。	探究活動後の2年次生対象アンケートで、「活動において地域・外部との連携ができたか」についての質問に関する、具体的な連携内容の記述を伴った肯定群の割合が、 A：80％ B：65％ ※昨年度2年次生アンケートで「あなた自身が成長したと思える点」（自由記述欄）で地域・外部連携に触れる記述24％						
④	教職員の指導力向上	総務 企画課	探究コーディネーターと連携して、教職員を対象とした研修を企画し、探究活動における教員の指導スキルや理解を高める働きかけを行う。	探究活動の指導を担う2年次教員を対象に、探究コーディネーター主体の校内研修を通して、「探究活動のスキルの伸長を感じたか」、及び、「活動に対する理解を深めたか」、を問うアンケートにおいて、肯定群の割合が、 A：80％ B：65％ ※昨年度2年次の教員アンケートで、半数以上の教員がPBL研修及び教員間の情報共有などをすべきだという項目にチェックをつけている。						

3 スクール・ポリシーに基づく、資質・能力を育成する教育活動の充実と重点化

本年度の 重点目標		担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
					達成状況		評価	達成状況		評価
⑤	教科指導・方谷学における「情報を分析し表現する力」「論理的・多面的に思考する力」の育成	教務課	高梁高校学習指導のスタンダードに基づいた授業で、生徒の資質・能力を育成する。	「あなたの未来を拓く7つの力」教科用アンケートの結果で、 ①「情報を分析し表現する力」 ②「論理的・多面的に思考する力」 の質問に対する肯定的な解答群の割合がそれぞれ、 ①A: 70% B: 65% ②A: 75% B: 70% ※昨年度：普通科①62.8%、②68.1%、家政科①44%、②48.8%						
		総務企画課	1年次のオンライン学習プログラム「locus」の授業指導の中で、必ず2つの力のうちの一方の育成に関わる活動場면을設け、定量的にこれらの力の育成を図る。	探究活動後の1年次生対象アンケートで、2つの力を「育てることができたか」の問いについてのそれぞれの肯定群の割合が、 A：90% B：70% ※昨年度：「情報を分析し育てる力」について 「そう思う」31% 「ややそう思う」57%						
⑥	学校行事における「受容する力・対話する力」「協働する力」の育成	生徒課	生徒会執行部を中心に生徒会活動（学校行事・各種委員会活動等）を活発に行う。その中で生徒はクラスでの取り組みを通して「受容する力・対話する力」「協働する力」を身につける。また、部活動においても、部顧問会議等で顧問に働きかけ、活性化・環境整備を行うことで生徒のこれらの力の育成を図る。	学校行事と部活動・生徒会活動で「協働する力」「受容する力・対話する力」が伸びたと実感した生徒の割合 A：70% B:50% ※昨年度「協働する力」が部活動・生徒会活動で68.5%、学校行事で78.2%「受容する力・対話する力」が同61.9%と59.8%						
		家政科	家政科独自の行事（家政科展・家庭クラブ活動・家政科集会等）などを生徒主体で運営させ、他学年等との対話や協働する場面を増やす。	A：生徒主体で家政科独自の行事が計画的に運営でき他学年との交流ができた。または、生徒アンケート8割が肯定的な回答 B：生徒が主体性を持って家政科の行事に取り組み他学年との交流ができた。または、生徒アンケート6割が肯定的な回答						

4 I C Tの効果的活用の促進

本年度の 重点目標		担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
					達成状況		評価	達成状況		評価
⑦	ICTを活用した効果的な教科指導と観点別評価	指導教諭	5月・11月に授業見学週間を設定し、ICT機器を活用した授業実践の相互研修・教材共有の機会とする。	①「生徒が端末を活用して情報を整理・分析する活動を設定していますか」 ②「生徒が端末を活用して発表する活動を設定していますか」 ③「生徒が端末を活用して考えなどを共有しながら学び合う活動を設定していますか」 の質問に対する肯定的な解答郡の割合がそれぞれ ①A：75% B：70% ②A：70% B：65% ③A：80% B：70% ※昨年度3回の平均：①69.6%、②59.8%、③64.2%						

5 自己管理のできる生徒の育成

本年度の 重点目標		担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
					達成状況		評価	達成状況		評価
⑧	学習習慣の定着と学習時間の伸長	進路課	各年次の時期ごとに、教科バランスのモデルケースを示し、学習実態調査を効果的に活用する。 クラス担任や教科担任と連携をとりながら、面談や通信を通して放課後時間の充実に向けた指導を図る。（含むデジタルコンテンツ）	学習実態調査の結果が、 A：1・2年普通科は3.5時間、3年次普通科は4.0時間 1 2 3年家政科は2.5時間 または年度当初と比べて0.5時間以上の伸長 B：1・2年普通科は3.0時間、3年次普通科は3.5時間 1 2 3年家政科は2.0時間 または年度当初と比べて0.3時間以上の伸長 ※昨年度末の学習実態調査の平均 家政科 1年 1.1 2年 2.4 3年 2.9 普通科 1年 3.1 2年 3.4 3年 4.0						
⑨	治療率の向上	厚生環境課	クラス担任を通じて治療指示をお願いする。 夏期、冬期休業前の保護者懇談の機会を捉えて、治療を促す。 未治療者を個別に指導する	○治療支持の生徒のうち処置完了者の割合が、 A：歯科、眼科ともに65% B：歯科、眼科ともに50% （昨年度）歯科・・・46.2%、眼科・・・39.3%						

6 働き方改革の推進

本年度の 重点目標		担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
					達成状況		評価	達成状況		評価
⑩	意識改革・定 時退校日設定 による業務時 間の短縮	管理職	あらかじめ定時退校日を設定し、限られた時間での業務遂行を意識することで、時間外在校等時間の削減を図る。設定日数は次の通り。 5月・・・・・・月1日 6月～7月・・・月2日 8月・・・・・・月3日	4月から12月までの月当たり時間外在校等時間について、 A：37.6時間未満（5％削減） B：38.4時間未満（3％削減）						
⑪	ICT活用による業務時間の縮減		デジタル採点システム「百問繚乱」により採点業務の効率化を図る。 保護者連絡システム「校支援」により、紙媒体での文書配付を削減することで印刷に係る時間とコストを削減するとともに、欠席連絡等の時間外電話対応の削減を図る。							